

学長定例記者会見要項

日 時： 平成30年3月22日（木） 11:00～11:45
場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

発表事項

1. 4月1日付け人事異動について
2. 飯豊町×地域教育文化学部
特産品スベリヒユ（ひょう）を使ったおやきの商品化に挑戦！
3. 昭和初期に行われたアイスモンスター（樹氷）の研究資料を発見

お知らせ

1. 山形大学長、鶴岡工業高等専門学校校長による産学連携講演会について
2. 山形大学入学式の取材に対するお願い

（参 考）

○ 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：平成30年4月2日（月） 11:00～11:45

場 所：山形大学文化ホール（小白川キャンパス）

学長定例記者会見（3月22日）発表者

1. 4月1日付け人事異動について

学長

こやま きよひと
小山 清人

2. 飯豊町×地域教育文化学部

特産品スベリヒユ（ひょう）を使ったおやきの商品化に挑戦！

飯豊町役場商工観光課観光交流室 主査

いとう みよこ
伊藤 満世子

飯豊町地域振興公社 専務取締役

まつやま かずとし
松山 一利

地域教育文化学部食環境デザインコース 3年

わだ かな
和田 栞奈

〃 食環境デザインコース 3年

わたなべ みほ
渡部 美帆

〃 造形芸術コース 3年

おやまだ しんや
小山田 真也

3. 昭和初期に行われたアイスモンスター（樹氷）の研究資料を発見

山形大学 学術研究院教授（地球化学・環境化学）

やなぎさわ ふみたか
柳澤 文孝

学長記者会見用資料

山形大学人事異動(平成30年4月1日)

<役員>

職名	氏名	前職
理事・副学長(教育・学生支援・国際交流)	安田 弘法	再任
理事・副学長(研究・評価・病院)	久保田 功	再任
理事・副学長(EM・IR・入学試験・社会連携・知的財産)	大場 好弘	再任
理事・副学長(総務・広報)	阿部 宏慈	再任
理事・副学長(財務・施設)	小島 浩孝	再任
副学長	出口 毅	新任(現・地域教育文化学部長、就任後は兼務)

<部局長>

職名	氏名	前職
鶴岡キャンパス長	林田 光祐	再任
人文社会科学部長	清塚 邦彦	再任
社会文化システム研究科長	清塚 邦彦	再任
地域教育文化学部長	出口 毅	再任
地域教育文化研究科長	出口 毅	再任
教育実践研究科長	出口 毅	再任
有機材料システム研究科長	伊藤 浩志	再任
農学部長	林田 光祐	再任
農学研究科長	林田 光祐	再任

<部課長>

職名	氏名	前職
施設部長	新保 昌人	日本スポーツ振興センター新国立競技場設置本部施設部設備課長
小白川キャンパス事務部長	平賀 久義	飯田キャンパス事務部企画管理課上席専門員
米沢キャンパス事務部長	金生 周篤	米沢キャンパス事務部会計課長
エンrollment・マネジメント部入試課長	更科 一裕	小白川キャンパス事務部総務課長
総務部総務課長	玉田 邦彦	室蘭工業大学総務広報課長
施設部施設整備課長	大平 隆人	弘前大学施設環境部環境安全課長
小白川キャンパス事務部総務課長	斉藤 勤也	エンrollment・マネジメント部EM企画課長
小白川キャンパス事務部学生課長	金子 誠	飯田キャンパス事務部学務課副課長
飯田キャンパス事務部医事課上席専門員	関野 雅彦	米沢キャンパス事務部総務課上席専門員
飯田キャンパス事務部医事課長	東海林 守一	エンrollment・マネジメント部社会連携課長
米沢キャンパス事務部会計課長	庄司 三輝	米沢キャンパス事務部研究支援課副課長

<附属学校園>

職名	氏名	前職
附属小学校教頭	高橋 浩	山形市立滝山小学校教頭
附属小学校教諭	水川 祐一	天童市立天童中部小学校教諭
附属小学校教諭	佐藤 大将	酒田市立鳥海小学校教諭
附属小学校教諭	槇 正智	山形県教育庁文化財・生涯学習課文化財活用主査
附属小学校教諭	成澤 結香里	山形市立第九小学校教諭
附属小学校教諭	吉田 美有紀	山形市立第七小学校教諭
附属中学校校長	小関 広明	寒河江市立寒河江小学校教頭
附属中学校教頭	早坂 智	東根市立第二中学校教頭
附属中学校教諭	山路 一哉	東根市立第一中学校教諭
附属中学校教諭	多田 渉	山形市立蔵王第二中学校教諭
附属特別支援学校教諭	早坂 美紀	山形養護学校教諭
附属特別支援学校教諭	小形 ちひろ	楯岡特別支援学校教諭
附属特別支援学校教諭	木村 智子	村山特別支援学校教諭
附属特別支援学校教諭	八鍬 洋祐	鶴岡養護学校教諭
附属特別支援学校教諭	鈴木 希菜	新庄養護学校教諭

平成30年3月22日
山形大学

飯豊町 × 地域教育文化学部

特産品スベリヒユ（ひょう）を使ったおやきの商品化に挑戦！

地（知）の拠点整備事業および地域教育文化学部・実践型野外実習「フィールドプロジェクト（フード&アート）」として、地域教育文化学部の学生らが、（株）飯豊町地域振興公社、飯豊町役場、山形銀行およびマルシチ米穀店（飯豊町）と協議・協働して、食べる雑草こと「スベリヒユ（ひょう）」の成分分析した上で、新規メニュー「おやき」を開発しました。

この度、その新メニューである「おやき」について、商品名『飯豊のひょっとして』として、製造・販売していくことになりました。

山形大学地域教育文化学部では、「フィールドプロジェクト」という実践型野外実習を必修講義として、学生が地方自治体や地域企業と協働して、地域活性化や町おこしを通じて、卒業後の社会実践力を育成しています。

その講義において、山形県内の山間地方における過疎化や高齢化は、深刻な課題となっており、地域食材による6次産業を起点とした地域活性化が期待されていることに注目し、畑の雑草ことスベリヒユ（ひょう）の又メリと酸味に注目して、様々な活用化を模索していた飯豊町を取り上げ、山形大学と（株）飯豊町地域振興公社で共同研究を締結して進めてきました。

飯豊町の「ひょう」に注目して、2年前から、食環境デザインコースと造形芸術コースの学生らが混合チームを結成して、①クエン酸や乳酸などの有機酸（すっぱい原因）を分析すると同時に、②すっぱさを活かしつつ、特産品やお土産にできる食品メニューを開発し、特に試作品の中で最も好評であった「おやき」の商品化を目指しました。また、③商品化に当たり、パンフレット、ポスターや包装のデザインも学生らが飯豊町への思いを「カタチ」に仕上げ、作成しました。

この「おやき」に興味を持ったマルシチ米穀店が、「ひょっとして」という商品名で、飯豊町の収穫感謝祭（11月3日）にて実際に販売いたしました（1個140円；税込み）。短時間で250個すべて完売するほど、極めて好評であり、今後は定期的な販売へ向け、引き続き、スベリヒユの確保や販路を検討しています。

（お問合せ先）

学術研究院 准教授（地域教育文化学部主担当）

小酒井貴晴

TEL：023-628-4354

商品販促用ポスターの制作



飯豊町の源流の森体験工房で制作した萩生焼のお皿におやきを載せて撮影。おやきの色を再現するために画像処理ソフトで色味を調整。さらに焼きたて感を出すために湯気の画像を追加加工している。ポスターは当初上掲のA3サイズのものを作成し2017年11月3日の収穫感謝祭での販売に用いたところ好評だったために、要望を受けA2サイズに拡大して再制作。その際には商品ロゴをラベルシールで用いたものに変更している。



ーデザインチームの仕事ー



おやきのためのお皿の制作



飯豊町の源流の森にある体験工房で萩生焼の技法を用いたお皿を制作。おやきを載せることを前提に、おやきの色や大きさ、形を考えてデザインし制作している。

ラベルシールの制作

デザインのコンセプトは「ひょうらしき」と「親しみやすさ」の両立。そこに「飯豊のシンボルを盛り込む」こと。

飯豊連峰をイメージさせる、手書き文字を作成し、そのままではややグロテスクな印象を与えるひょうを商品ロゴの手書き風文字に合わせて一筆書きのようなシンプルな線描で表現している。この線描のひょうは成分表示ラベルにも用いられている。

●商品名：ひよっとして●原材料名：小麦粉、米粉、食塩、スベリヒユ、豚ひき肉、オイスターソース、たけのこ、醤油、みりん、にんじん、春雨、しいたけ、片栗粉、ごま油
●この商品に含まれるアレルギー物質（27品目中）：小麦、豚肉、大豆、ごま
●本日中にお召しあがりください。

商品パッケージ裏面に使用する成分表示ラベル

平成30年3月22日
山形大学

昭和初期に行われたアイスモンスター（樹氷）の研究資料を発見

アイスモンスター（樹氷）の研究は昭和40年代半ばから行われるようになったと言われてきました。今回、昭和5年から15年にかけて高山植物学者の武田久吉氏と濱田（田邊）和雄氏によって行われたアイスモンスター（樹氷）の研究資料が見つかりました。

1. 経緯

平成30年1月、高山治男氏から、昭和4年4月に蔵王山頂で撮影された樹氷の写真や、昭和5年に改造社より出版された「日本地理大系（山岳編）」などをご寄贈いただきました。これらは、高山治男氏のお父上であり、旧制山形高等学校に勤務されていた高山英夫氏が所蔵されていたものでした。

ご寄贈いただきました「日本地理大系（山岳編）」を拝見したところ、高山植物を研究されていた武田久吉氏と濱田（田邊）和雄氏によるアイスモンスター（樹氷）についての説明と、刈田岳で撮影されたアイスモンスター（樹氷）の写真が見つかりました。これまでは、アイスモンスター（樹氷）の研究が行われるようになったのは昭和40年代の半ば以降とされておりましたので、それより30年～40年も前に研究され、アイスモンスターの成因が明らかにされていたこととなります。

2. 樹氷（アイスモンスター）の成因に関する研究

「樹氷（エビノシッポ）」とは、風で運ばれてきた過冷却水滴が樹木などに衝突して凍結した着氷のことです。一方、「樹氷（アイスモンスター）」とは、「樹氷（エビノシッポ）」に着雪し、両者が焼結によって分かちがたく一体化したものです。

これまで、アイスモンスターの成因については以下の3つの説がありました。

「雪説」 雪が凍りついたもの（大正3年～昭和10年代）

「過冷却水滴説」 過冷却水滴が凍りついたもの（昭和10年代～昭和40年代）

「複合体説」 過冷却水滴によってできた「エビノシッポ」に着雪し、

両者が焼結して分かちがたく一体化したもの（昭和40年代半ば以降）

着氷についての研究は昭和10年代から行われましたが、戦時下のため、着氷を防ぐにはどうしたらいいのかを主眼として行われたものです。一方、アイスモンスターについて研究されたのは、昭和43-44年の「蔵王の樹氷の総合研究（芝浦工業大学 小笠原和夫）」、昭和44年の「蔵王の樹氷調査報告（北大低温研究 黒岩大助ら）」からです。これらの研究では、樹氷の成長や樹氷の断面の観察が行われ、アイスモンスターが着氷・着雪の焼結からできていることが明らかとされました。昭和45年以降は、山形大学理学部物理学教室の阿部正二郎・矢野勝俊らによって樹氷の生成条件が研究され、現在に至っています。

3. 今回見つかった研究資料について

（注：濱田はエビノシッポである樹氷について霧氷というべきだとしていることから該当箇所は霧氷[※]と表記しました。なお、この用語の使い方は、厳密には現在の使い方と一致していません。）

「日本地理大系（山岳編）」の「冬の杉ヶ峯」の稿では、アイスモンスターについての説明と、刈田岳で撮影されたアイスモンスターの写真が掲載されています。説明文には「冬の杉ヶ峯：刈田岳下から見た杉ヶ峯の冬景色で、近く立つ石像の如きはヒメコマツに粉雪と霧氷[※]とが厚い衣を被せたもの、中景の針葉

樹はオオシラビソで孤々独立した有様は西欧のタンネ（注：ドイツ語 もみの木 クリスマスツリーの様になっているとの意）を思はせる。」となっています。このことから、アイスモンスターを雪と霧氷※の複合体であると捉えていたことが分かります。一方、「硫黄岳」の稿では「硫黄岳：峯の松目の東肩約2500米の地点から東に仰いだ厳冬の硫黄岳で積雪と霧氷※の為に岩もハイマツも悉く白妙の衣を着」と記載されており、蔵王における「粉雪と霧氷※とが厚い衣を被せたもの」と異なった記述となっています。このことは、霧氷※とアイスモンスターを区別できていたことを示します。また、これらは昭和40年代半ば以降の研究と同じ内容となっています。

これまでに、蔵王の樹氷関連でお二人のお名前が出てきたことはありませんでした。また、アイスモンスターの研究が行われたのは昭和40年代の半ば以降とされており、それより30年～40年も前にアイスモンスターについて研究され成因が明らかにされていたこととなります。（注：中谷宇吉郎は雪と過冷却水滴の混合に言及されていますが、過冷却水滴を太平洋起源とするなど現在の考えとは一致しません）

お二人の研究の特徴は観察です。大正10年に丹沢山塊の仮小屋に泊まりウラジロモミの葉に霧の凍る過程を観察して樹氷となる過程を明らかにされています。また、昭和2年には、冬のハヶ岳に出向き、過冷却した水滴からなる霧を吹きつけて樹枝や樹幹に触れる拍子に凍結し、それがセメント（注：接着剤の意）になって同時に降った粉雪を結合することを見つけられています。これらの研究を踏まえることで、アイスモンスターの成因解明につながったと考えられます。

しかし、昭和10年代半ば以降、お二人のアイスモンスターに関する研究は見つけられませんでした。戦時下の蔵王では着氷の研究が行われていましたが、着氷を防ぐ研究が中心であり、お二人の研究は顧みられることなく埋もれてしまったと考えられます。

現在、アイスモンスターの成因としては過冷却水滴説が一般に広く知られています。戦時下に着氷を防ぐために研究された事に説得力があるためと考えられます。アイスモンスターが着氷・着雪の焼結からできているという複合説と、樹氷にアイスモンスターとエビノシッポの二種類があることの理解を広めていくことが今後の大きな課題です。本内容は5月に行われる雪氷学会で発表する予定です。

.....

- * 武田久吉（1883-1972） （高山）植物学者・登山家・「尾瀬の父」・日本山岳会創設者の一人
イギリスの外交官アーネスト・サトウと武田兼の次男
京都帝大講師の際に東京帝大の濱田（田邊）和雄の卒修論を指導
- * 濱田（田邊）和雄（1900-1961） （高山）植物学者・登山家
大正15年 鹿島槍積雪期初登攀
一高・東京帝大（昭和2年卒業・昭和4年修了 武田久吉に卒修論の指導を受けた）
昭和5年 植物学担当教授として松江高校へ赴任（松江高等学校校長）
大正11年にチヌセブリ、大正12年から蔵王など全国のアイスモンスターを見て歩く
- * 深田久弥（1903-1971） 随筆家・小説家・登山家・日本百名山
大正11年 一高卒（旅行部の先輩である濱田和雄の影響で登山を始める）
昭和2年 東京帝大入学・改造社入社（編集に携わる）
昭和5年 東京帝大退学・改造社退社し、作家生活に入る（濱田より霧氷について教わる）
- * 改造社（1919-1944）
大正15年 円本の出版開始
昭和5年 日本地理大系（12巻＋別巻5）

.....

（お問合せ先）山形大学 学術研究院（地球化学・環境化学） 山形大学認定研究所 蔵王樹氷火山総合研究所 教授 柳澤文孝 電話 023-628-4648

雪説（雪が凍りついた）	過冷却水滴説	複合体説（過冷却水滴と雪が焼結）	年	武田久吉・濱田（田邊）和雄
神山峯吉らの冬季蔵王初登頂の際に認識され「雪の坊」「雪窟」とよばれる			T3 1914	
			T10 1921	武田：丹沢で葉に霧の凍り樹氷となる過程を観察
慶応大学が宮城県側から山形県側へ冬季初踏破			T11 1922	
			T12 1923	「科学知識 武田」1月15日東京で雨氷を報告
「日本アルプス百景 大阪朝日新聞社」雪が樹木に降り積もったもの			T14 1925	
			S2 1927	「冬の八ヶ岳 武田」吹けば舞い立つ粉雪がどうして樹枝の表裏を全く包んでしまったり樹幹にも膠着し得るかといふ疑問を解決したかったからである。降雪時に伴うて起る、過冷却した水滴から成る霧が、風のまにまに吹きつけて、樹枝や樹幹に触れる拍子に凍結し、それがセメントになって、同時に降った雪を結合するからなのである。
「スキーへ 鉄道省」樹木に雪が氷着し時として全体が雪で包まれる雪の塔			S4 1929	
			S5 1930	「冬の杉ヶ峯 武田・濱田」刈田岳下から見た杉ヶ峯の冬景色で、近く立つ石像の如きはヒメコマツに粉雪と霧氷*とが厚い衣を被せたもの、中景の針葉樹はオオシラビソに孤独独立した有様は西欧のタンネを思はせる。「硫黄岳 武田」積雪と霧氷*
「彼岸獅子 渡邊波光」樹枝を雪の包帯でぐるぐるまきにしたみたいなもの			S6 1931	
「山小屋 安齋徹」樹雪の方はまったく樹枝の上面に積もったものであるが、高山のトド松など針葉樹においては、両者が結合してすっかり全木を包んでしまうものもある。			S9 1934	
			S11 1936	「霧氷*の話 濱田」羽翼状の樹氷の隙間に普通の雪が詰り、次の機会には更に其の上に樹氷を着けて行くらしく見える点もあります。樹氷と雪がとの混合物が出来上がるのが一番多いようであります。
			S12 1937	「思い出の山々 濱田」鳥の羽かエビの尻尾の様な形をした樹氷の隙間に、雪が詰まって来る。恐らく樹氷が出来たり雪が吹き付けられたり、又其の上に樹氷が一段と発達したり、段々と怪物化して来るのであらう。」
	蔵王小屋で着氷研究（黒田正夫）		S14 1939	
			S15 1940	「樹氷の話 濱田」この怪物自身を樹氷と誤称している人もあり、又之を形成している材料が純粋な樹氷のみでもない。針葉樹では霧氷*と雪との混合物が梢にしっかりとしがみ付いて、更にその上から同様の混合物で樹木全体を締め付けて了う。恰も樹木全体を縄でぎりぎりに縛り上げて、夫れを砂糖で固めた様にしてふのである。
	蔵王小屋で着氷実験（小型風洞と模型翼）、		S16 1941	「樹氷 深田久弥」我々は樹氷と一概に呼んでいるが、その方の研究をしている友人の説によると、これは霧氷*と呼ぶべきだそうである。モンスターの大部分はオオシラビソといふ針葉樹だが、それが枝もろとも雪と氷とガッチがらめにされて、思い思いの風貌姿勢で突っ立っているさまは、見事と云はうか、奇怪と云はうか
	蔵王小屋で着氷実験（小型風洞と模型翼）	「樹氷の世界 中谷宇吉郎」所謂モンスターと呼ばれている雪山の怪人は雪片と霧の粒とが混じって凍りついたもので、霧の粒が糊のやうな役目をして雪片を凍りつかせている	S17 1942	
「樹氷の山を探る 安齋徹」雪の氷化した刺刺の	蔵王小屋で着氷実験（予備研究）		S18 1943	
	蔵王小屋を山頂に移築し本研究		S19 1944	
	移築した蔵王小屋で本研究		S20 1945	
	「樹氷の話 安齋徹」樹氷となるものはみんな過冷却の水滴ばかりなのです。		S22 1947	
	「山と渓谷 安齋徹」雪片の衝撃液化ではなく、過冷却水滴が雪に混じって吹きつけて、衝突すると同時に氷化付着するのが原因と分かった。	「樹氷の科学 中谷宇吉郎」蔵王の樹氷は針葉樹が全体に雪で蔽われたものである。雪の大きい塊りは、金華山の沖で出来る濃い過冷却水滴の霧がやって来て、それが糊の役目をして、あの山に降る雪の結晶を針葉樹の上へ凍りつかせて出来たものである。	S25 1950	「日本高山植物図鑑 武田・濱田」霧氷*は過冷却した霧の水滴がぶつたいに衝突して氷結してできる。石でも木でも積雪の上にも、何でも附着する。それが一面附着すると、それらの隙間に粉雪が詰め込まれ、更にその外側に次の霧氷*が着いて、段々に発達し、積雪を抜いて立つ程の大きな樹木までも、アイシングをかけた菓子のように、固めて取り囲んで了う。
	「蔵王の樹氷 加藤愛雄」過冷却の雲滴が蔵王山の西斜面に吹きよせられて樹木に当たると、枝葉に衝突して直ちに氷結する。蔵王山にはアオモリトド松の森林が多いのでその枝、葉等にこの過冷却の水滴が次ぎ次ぎに氷結して氷の小さな滴で被ってしまう。		S30 1955	
		蔵王の樹氷の総合研究（小笠原和夫）・蔵王の樹氷調査報告（黒岩大助ら）で樹氷が着氷（エビノシッコ）と着雪の焼結からできていることが明らかとなる	S43 1968	
		山形大学理学部の阿部正二郎・矢野勝俊らによって樹氷の生成条件解明	S45 1970	

平成30年3月22日
山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 山形大学長、鶴岡工業高等専門学校校長による産学連携講演会について

「地域が求める人材と地域が育てる人材」と題して小小学長が、「地域の経営に求められるリーダーシップ」と題して鶴岡工業高等専門学校高橋校長が、それぞれ講演を行います。

両機関のトップがこのような講演会でお話しするのは、初めての機会です。

日時：平成30年3月29日（木）15時00分～16時30分

場所：東京第一ホテル鶴岡2F 鶴の間

※参加無料（要申込）

2. 山形大学入学式の取材に対するお願い

円滑な進行にご協力をお願いいたします。

※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

◎ 第11回 学長特別講演会の開催について

山形大学の3つの使命「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を発信するため、シリーズで開催している学長特別講演会の第11回目の開催が決定しました。講師に、東京大学大学院経済学研究科教授・東京大学ものづくり経営研究センター長 藤本 隆宏（ふじもと たかひろ）氏をお迎えします。

日時：平成30年4月16日（月）16時30分～18時00分

場所：山形大学小白川キャンパス

※参加無料（要申込）



学長 小山 清人 氏

「地域が求める人材と
地域が育てる人材」



学校長 高橋 幸司 氏

「地域の経営者に求められる
リーダーシップ」



山形大学学長
鶴岡高専校長

産学
連携

講演
演
会

日時

平成30年 3月29日 (木)
午後3時～午後4時30分

会場

東京第一ホテル鶴岡 2階 鶴の間
※駐車台数に限りがあります。可能な限り乗り合いでお越しください。

参加費

無料

申込

平成30年3月23日 (金) まで、FAX. (0235-24-6171) でお申込ください

主催：鶴岡商工会議所 共催：鶴岡地区雇用対策協議会 後援：鶴岡市、山形大学 COC+推進室

参加申込書

FAX: 0235-24-6171

所属：

電話：

参加者名：

参加者名：

参加者名：

参加者名：

平成30年3月22日
山形大学

山形大学入学式の取材に対するお願い

平成30年度入学式を以下のとおり挙行いたします。
式当日の取材に際しては、壇上での撮影は差し支えありませんが、式進行の妨げとなるような行為は慎んでいただき、円滑な進行にご協力をお願いいたします。
また、学長告辞については当日に配付いたしますが、式終了後に公表願います。

【山形大学】

日時：平成30年4月3日（火）10：30開式

会場：山形県体育館（山形市）

式次第：

1. 開式のことば
2. 山形大学大学歌斉唱
3. 学長告辞
4. 入学生宣誓
5. 役員等紹介
6. 閉式のことば

備考：式典終了後、引き続き以下のとおり予定しております。

- ・ YU Do Best奨学生証授与
- ・ 学生生活について
- ・ 歓迎セレモニー（花笠踊り及び山形大学学生歌披露）

【附属学校】

●附属幼稚園

日時：平成30年4月12日（木）10：00開式

会場：附属幼稚園遊戯室

●附属小学校

日時：平成30年4月9日（月）9：30開式

会場：附属小学校体育館

●附属中学校

日時：平成30年4月9日（月）13：30開式

会場：附属中学校体育館

●附属特別支援学校

日時：平成30年4月11日（水）10：30開式

会場：附属特別支援学校体育館

（お問合せ先）

総務部総務課（総務担当）

電話 023-628-4006